地域コミュニティの活性化に向けて
-「学生と地域の共生・共働・共汗を目指す！」-

春・秋連結学期 | 今出川校地開講科目

1. 目的・概要

the purpose and an outline

本プロジェクトの目的は、上京区という実際の地域を通して、①地域コミュニティの活性化とは何か ②学生と地域のあるべき関係とはどのようなものか、以上の2点を学ぶことを目的としています。

本プロジェクトの概要

春学期の活動は、地域コミュニティとは何なのか、地域活性化とは何なのか、学生と地域が関わることで何が生まれるのか、といった議題に対してメンバー同士で議論を交わすところからスタートしました。

その後はメンバーそれぞれが地域で行われているイベントに参加しました。そして、参加した後はその感想をレポートとしてまとめ、メンバー全員で各々の経験を共有するように努めました。そういった経験を共有しつつ議論する中で、地域と学生の関わりの薄い、地域に関わる学生同士の交流がない、という問題点を発見し、これを解決する一つの手段として「同志社地域学生サミット」というイベントを開催しました。大学の職員の方や地域で活動しているNPOの方、地域と関わる様々な学生団体など、多くの方々に参加してもらうことができました。

秋学期の活動は、主に学生と地域の距離をどのようにすれば縮めることができるか、ということにアプローチを絞り活動することにしました。その結果、上京区についてあまり関心をもってない多くの学生に、とにかく上京区について知ってもらおう、ということで、上京区の事業として創られたカミングという地域のサイトと連動して上京区の魅力や不思議などを多くの学生に様々な情報を発信しました。メンバーそれぞれが自らで取材し記事を編集することで、上京区の魅力を再認識するとともに多くの学生に上京区の魅力を伝えることが出来ました。

annual schedule

2012年	4月・5月	実際に上京区のイベントに各自で参加、地域とは何か、活性化とは何かを体験。その後数回のワークショップでそれぞれの地域についての理解を深める。
	6月・7月	サミット開催に向けて実施準備を行う。具体的には、①イベントの中身を考える班、②宣伝・広報を担当する班の２グループに分かれて活動。そして7月12日に「同志社地域学生サミット」を開催。
	8月・9月・10月	夏休みは週1でミーティングを開き、春学期に活動の反省や秋学期の活動に向けて話し合った。結果、学生にもっと地域に関して知ってもらうために魅力を発信しようということになり、自分たちでサイトをつくることに決定。
	11月・12月・2013年1月	上京区の魅力を発信するサイト「ドッキング」に載せる情報を集めるため、複数のグループに分かれ、取材活動を行う。12月の終わりごろからには広報を活動を中心に進める。

2. 成果達成度

the achievement degree

春学期:目標　地域で活動する学生同士の繋がりを強める。

上記の目標を達成するために、私たちは「同志社地域学生サミット」を企画しました。このサミットでは40人程度の参加者が集まることができました。ただ、このサミットでできた繋がりを充分に活かすことができなかった点などが反省点として上げられました。

秋学期:目標　地域に新たな学生を取り込む。

上記の目標を達成するために、私たちは2つのことをしました。1つ目は、カミングのサイト内に学生向けの情報充実です。そのために、私たちはカミング内に「ドッキング。」という学生向けの新ページを作成しました。この「ドッキング。」の新ページには、学生視点での上京区のQ&Aコーナーを作成しました。例えば、「今出川キャンパスと新町キャンパスの間にあるパーマカワァイって??」など同志社の学生が身近に感じられるような話題を中心に載せていきました。最終的にはQ&Aの記事については、全部で20程度の記事を作成することができました。

2つ目は、カミングの認知度向上です。カミングの認知度を上げるために、ポスターと配布用のカードを作成しました。ポスターは大学内に掲示し、カードについては上京区のマスコットキャラクターかみぎゅうくんの着ぐるみを着て配布しました。反省点としては広報物の完成までに時間がかかりすぎてしまい、広報する時間が短くなってしまったことです。多くの人と協力して行う作業なので、綿密に連絡を取ることや、一つ一つの作業にどれくらいの時間がかかるのかをよく調べておくことが重要だと気づきました。ただ、カミングのFacebook上のページに「いいね!」を押してくれた人を増やすことができたので若干の成果があったと感じられました。

3. プロジェクトを通じて

through a project

このプロジェクトを通じて自分たちだけではなく、地域・大学の人との協力があって初めてこのプロジェクトがあるのだということを実感しました。このような地域・大学との協力を通じて地域と関わることの楽しさを発見でき、また地域の力というものを感じました。

このプロジェクトで得た経験を活かして、地域の魅力や、地域と関わる楽しさを少しでも多くの学生に知ってもらい、地域に関わる学生をさらに増やしていきたいです。

[編集後記]

報告書作成を通してこの1年間を振り返ると、本当にあっという間だったなと思います。上手くいかなかったことも多々ありますが、それこそが私達にとっての貴重な財産になったと今は実感しています。多くの方の助力を得て、とにかく楽しくプロジェクトの活動を行うことができました。ありがとうございました。

[プロジェクトメンバー]

羽野 修平(法4)　隈 佳晃(法4)　松田 えみり(商4)　大川 凌(政策3)　中井 めぐみ(政策2)　木村 実里(社会2)
西田 知里(社会2)　森下 和樹(SA)